

緊急！

人手不足！

～深刻化する労働力人口の減少～

皆様の社内では、人手不足にお悩みはございませんか？

日本国内製造業の人手不足は、ますます深刻化している状況です。今後は「正社員と期間契約社員」だけの伝統的労働構造だけでは必要人材の充足が困難となりつつある時代へと変化しています。その問題の原因となるのが、労働力人口(特に若年労働力人口)の急速な減少が引き起こす『**慢性的な人手不足**』です。この問題の国内製造業をはじめとする日本経済への影響は、深刻化する問題となっております。既に15歳から64歳までの労働力人口は、1990年代をピークに減少しており、国内の労働力確保に深刻なる影響がでています。政府関係機関の調べによると、2060年の推測労働力人口は、4,418万人となっており、1995年 8,717万人と比較しても 約50%の減少が予測されております。

また、増加の一途を辿る高齢化対策として、高年齢者雇用安定法の改正により「再雇用の義務化」が、段階的ではあるものの企業に課せられることとなります。

このような深刻化する雇用環境の変化に、多面的な切り口で新しい労務形態によるソリューションを求められる企業様が増えております。

次回の特集は、「これからの労務形態」についてご案内します。